



活躍の現場から



「佐賀さいこう！」を共に目指す仲間として

—— 佐賀県地域交流部国際課

多文化が活きる佐賀県を目指して

県では2017年6月に新たな国際ビジョン～Excellent SAGA～を策定し、国際展開における基盤づくりとして「多文化共生の地域づくり」を柱のひとつに掲げ、取り組んでいます。

現在、県国際課には4人（韓国、中国、オランダ、ベトナム）の国際交流員（CIR）が在籍しており、佐賀県と海外を結ぶ懸け橋として重要な役割を担っています。例えば県庁内外から依頼される翻訳業務や要人來訪の際の通訳業務、国際青少年交流の支援などがあり、CIRの業務は多岐にわたります。

その中でも、今年度からは特に、災害時の多言語情報に係る翻訳人材としての役割を強化しました。

普段からの取り組み

災害時多言語支援センター（センター）を共同運営する県国際課と（公財）佐賀県国際交流協会（SPIRA）では、職員同士の顔の見える関係をつくるため、国際課の多文化共生担当職員、CIR、SPIRA 職員の勤務先を佐賀県国際交流プラザ（プラザ）内の同室にし、常に情報共有ができる環境づくりに取り組んでいます。昨年度まではCIRの勤務地が、プラザから徒歩10分程の距離にある県庁内であったため、お互いが業務で顔を合わせる機会が少なく連携が取りづらいことが、昨年度末に実施した「センター設置運営訓練」での課題となりました。そこで、県国際課とSPIRAで協議を重ね、今年度はCIRが週1日、プラザ勤務を行うこととし、環境改善に取り組みました。

プラザで勤務を始めた当初は、CIRは緊張した様子でしたが、語学や文化、母国の事等を話しながら、週を重ねるごとに職員同士の関係性を構築し、国際課の多文化共生担当職員とSPIRA職員、CIRの間で、情報やお知らせを共有するなどコミュニケーションを円滑に行うよう

努めてきました。

課題が山積みの中での災害発生

県では、2018年度に「センター設置運営マニュアル」の仮作成に着手し、同年度3月に設置運営訓練を行いました。当時は全てが手探り状態で、職員全員が何を担い、どう行動すべきか、とまどうばかりの状況でしたが、マニュアル完成に向けて議論を繰り返し行いました。しかし、その矢先、2019年8月、佐賀豪雨が発生しました。

8月27日の夜遅くから強く降り出した雨は、28日未明から局地的な大雨となり、5時50分には佐賀県全域に大雨特別警報が発令されました。猛烈に降り続いた大雨と有明海の満潮が重なり、佐賀の平野部が広く冠水しました。そのような中、佐賀県は8月28日8時30分に佐賀県災害対策本部を設置。9時30分にセンターを開設しました。

しかし、センター開設場所であるプラザ周辺は広い範囲で膝下ほどまで冠水しており、通常徒歩10分以内で出勤できる職員も30分以上の通勤時間を要しました。CIRの自宅は自転車ですら15分程度の距離にありましたが、冠水により出勤困難となり、28日は自宅待機となりました。

災害時の多言語情報発信で活躍

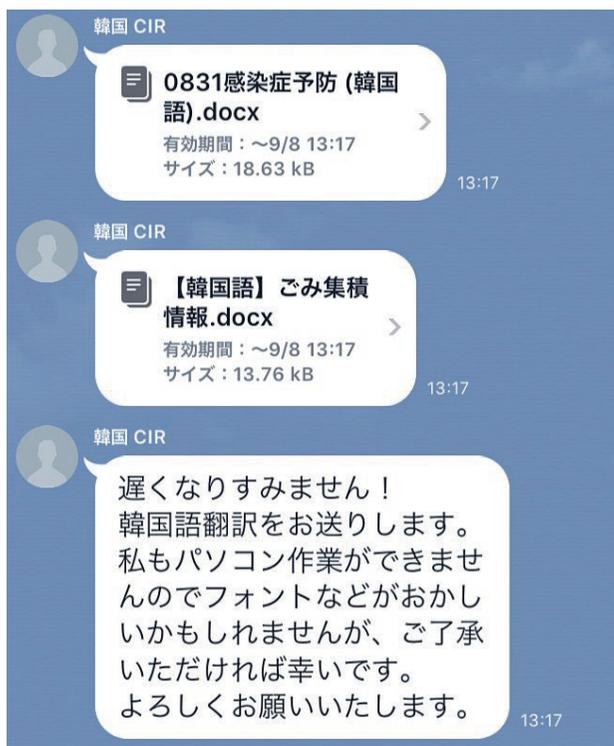
28日のセンター運営は職員5人で行いました。災害対策本部会議の情報を、佐賀県の在住外国人数の多い7言語とやさしい日本語の計8言語で発信し、韓国語、ベトナム語は国際課のCIRが、英語、中国語はSPIRA職員が、他の言語は外部団体や職員が個人的につながりのある外国人住民に依頼をし、対応しました。

8月29日までCIRは出勤ができず、LINEを使って情報を共有し、刻々と変わる被災地の情報をやり取りしながら翻訳作業に従事しました。災害対策本部が設置された直後は、大雨警報や土砂災害の気象情報の提供が主

な作業だったこともあり、気象庁が11言語で提供している「多言語辞書データ」やクレアの「災害多言語表示シート」の定型翻訳文を活用し、情報発信を行っていたものの、フェーズが変わるにつれて、各被災自治体から出される必要な翻訳対象情報が、断水・給水情報、災害ごみの収集場所、災害ボランティアの呼びかけ、罹災証明書の発行手続き、感染症の注意喚起などに変わり、既存の定型翻訳文は活用できなくなりました。

今回の佐賀県のように、横断的に市町が被災し、それぞれの市町に一定の外国人住民が存在している場合、センターとして、正確な情報を可能な限り短時間で提供しなければなりません。このような状況の中、CIRの協力が大きな力となり、スムーズに情報提供を行うことができました。これも日頃から顔の見える関係が構築されていたからこそ、LINE上でも丁寧に翻訳のやり取りができ、不明な部分も双方向から確認を取り合い、作業をスムーズに進めることができたと思います。

今後も、翻訳や通訳などの従来からの業務だけでなく、さまざまな立場の「視点」を共有し、「チーム佐賀県」の仲間として、一緒に多文化が活きる佐賀県をつくりあげていきたいと思っています。今後のCIRのさらなる活躍に大いに期待しています。



9月1日のLINEでのやり取り（ベトナム人CIR、韓国人CIRおよびSPIRAスタッフ）

